

福祉かるたプロジェクト「福祉を身近に」を未来へつなぐ

1. 福祉業界の現状と社会的課題

近年、福祉業界は「3K(きつい、汚い、危険)」といったネガティブなイメージを持たれやすく、特に若年層との心理的な距離が課題となっている。私たちは足羽福祉会での実習を通じ現場の「クリエイティブ」や「明るさ」といった真の魅力に触れた。

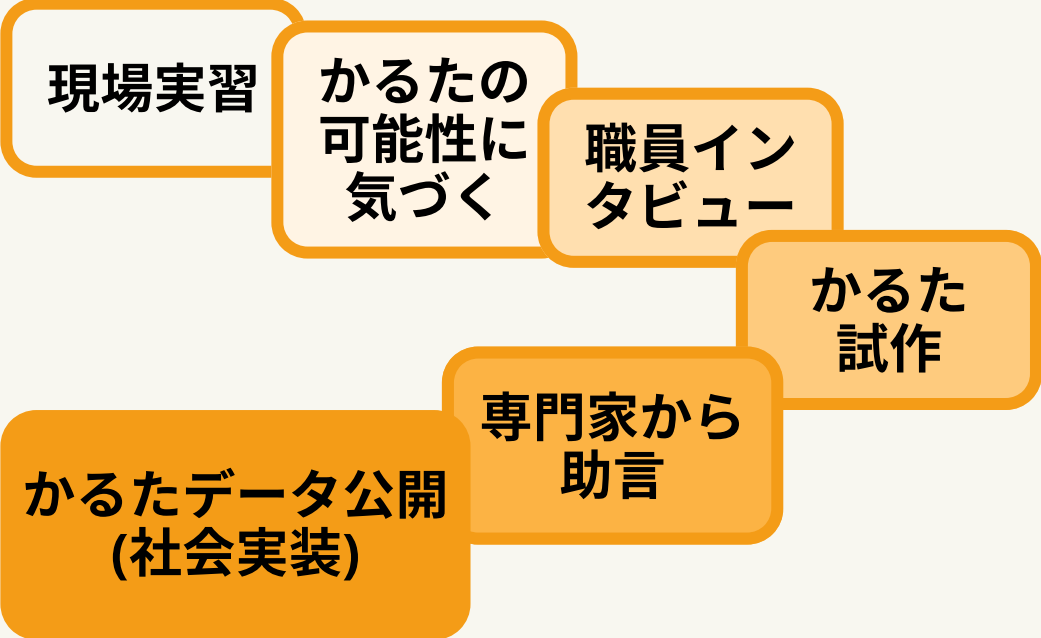
そこで、福祉の固定概念を払拭し、世代を問わず楽しみながら理解を深められる「福祉かるた」を製作することで、福祉をより身近なものとし、その魅力を持続的に次世代へ繋いでいくことを目的とした。

2. 社会福祉法人 足羽福祉会

福井県内最大規模の社会福祉法人。
「赤ちゃんからお年寄りまで」を対象に、障害、高齢、児童、地域支援の4部門で20以上の事業所を展開。今回、4部門すべてでインターンや見学、ボランティアをさせていただいた。



3. 活動の展開



4. 現場実習

当初抱いていた「3K」のイメージは、1年にわたる4部門での現場実習で覆された。柔軟な勤務時間調整や休憩時間の確保による職場環境の改善を目の当たりにした。

利用者一人一人の特性に合わせ、目視でルーティンを確認できる「トークン」など、クリエイティブな支援に感動した。この現場実習で知った福祉職のすごさや利用者の幸せそうな姿を形に残すため、私たちは福祉かるたの制作を決意した。



5. 福祉かるた体験イベント

「かるた」という手段が福祉の魅力を伝えるのに有効かを検証するため、オープンキャンパスに来た高校生を対象に体験会を実施した。体験を通じた学びが若い世代の興味を強く惹きつけることを実証した。



6. かるた制作

職員インタビュー

福祉職のやりがいを深掘りするため、多職種の職員5名に計3回のインタビューを実施した。そこで見えてきたのは、利用者一人一人に合わせた支援を工夫し、そのプロセスや学びさえも楽しむプロとしての前向きな姿だった。このインタビューで得た数々の面白いエピソードやあるあるをかるたに反映させることができた。

福祉かるた意見交換会

福井県の福祉職交流団体Fコネクトにご協力を依頼し、試作版の試遊とヒアリングを実施した。外部の専門家の視点から助言をいただいたことで、大人、子供、福祉職の人、福祉に興味がある人全員が楽しめるかるたをつくることができた。



7. 福祉かるたが生み出す未来

このプロジェクトのゴールはかるたを活用した持続的な福祉教育の仕組みづくりにある。一過性のイベントで終わらせないために、足羽福祉会や福井大学のHPにて、**かるたの印刷データを無料公開**する。これにより、学校、公民館、家庭などあらゆる場所でいつでも誰でも遊びながら福祉を学べる環境を整備する。

また、足羽福祉会の企業説明会や新人研修などで使用してもらうことで、福祉職の方々に「福祉の楽しさ」や「福祉の誇り」を再確認する機会を提供する。「モノ」と「データ」によりかるたを広げ、若い世代の福祉への心理的距離を打破し、誰もが自然に福祉を自分事として考えられる未来を創造し、福祉を身近にする。